



I C T 活用レシピ高等学校編

レシピの中で紹介しているアプリ等は一例となります。アプリの利用を強制するものではありません。学校の実態に応じて御活用ください

Google™, Google ドキュメント™, Google スプレッドシート™, Google スライド™, Google フォーム™, Google Jamboard™, Google Meet™, Google Classroom™, Google Earth™ は、Google LLC の商標または登録商標です。
Windows, Word, Excel, PowerPoint, Microsoft Whiteboard は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Keynote, Pages, Numbers, iMovie は、米国その他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
なお、本文中には™マーク、®マークは明記していません。

I C T 活用レシピ高等学校編 目次

教科・科目等	単 元 名	ページ	活用場面
国語 国語総合	小説 『羅生門』	1	C 1、C 2
地歴・公民 現代社会	持続可能な開発目標 (SDGs) と私たち	4	A 1、C 2 C 3
数学 数学B	空間座標とベクトル	8	B 1、B 3 C 2
理科 地学基礎	地球の変遷「宇宙、太陽と地球の誕生」	12	B 2、C 3
保健体育 保健	現代社会と健康	15	C 2、C 3
外国語 英語表現Ⅱ	英語でニュース番組を作ってみよう	18	C 1、C 3
家庭 家庭総合	食生活の科学と文化	21	A 1、B 2 B 5、C 1
情報 社会と情報	情報社会に関する法規や制度と個人の責任	27	C 2、C 3
工業 原動機	自動車の発達と社会生活	30	B 1、B 2 C 2、C 3
商業 マーケティング	市場調査	36	C 2、C 3
福祉 社会福祉基礎	社会福祉思想の流れと福祉社会への展望	39	B 1、C 2 C 3



国語総合 小説『羅生門』

目標

○他の文章と読み比べることで、作者が作品に込めた意図や思いを捉えることができる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT活用例
①	○初読の感想・疑問点を書く。 ○場面の变化に注意し、全体を4つに分ける。 ○単元の学習の見通しをもつ。	◆疑問点を挙げることで課題意識をもって授業に参加させるとともに、他者の感想や疑問に触れ、気づきを与える。 活用レシピ① C1 ◎ Google フォームを活用し、生徒が入力した感想・疑問点をその場で共有し、他者の意見から学ぶ機会を設定する。
学習課題 「下人」の行方を推測しよう		
②	○本文より「下人」と「老婆」の人物描写をまとめ、人物像をグループで話し合う。	◆比喩表現などにも注意させ、本文を根拠とし、話し合わせる。
③	○雨やみを待つ場面における下人の心情を理解する。	◆心情を表す表現や、情景描写、行動などから総合的に心情を捉えさせる。 ◆論理的に出した結論を心情的には認められない点に留意させる。
④	○老婆と出会った場面における下人の心情変化を理解する。	◆老婆の行動により、下人の心情がどのように推移していくのかに注目させる。
⑤	○老婆の弁明と下人の決断を読み取る。	◆下人の言動と老婆の論理との関わりを捉えさせる。
⑥	○『羅生門』と「羅城門」とを比較読みする。	◆冒頭部分や結末の設定の違いや、人物描写の違いなどに注意することで、作者が作品に込めた意図や思いを考えさせる。 活用レシピ② C2 ◎ Google Jamboard を活用し、『羅生門』と「羅城門」の相違点をまとめ、作者の意図や思いを考えさせる。
⑦	○比較から見てきたことを踏まえ、「下人」の行方を推論する。	◆具体的に推論させるとともに、理由もあわせて考えさせる。

C 1

発表や話し合い（15分）

活用レシピ①

◎ Google フォームを活用し、生徒が入力した感想・疑問点をその場で共有し、他者の意見から学ぶ機会を設定する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google フォーム」

【活用の流れ】

『羅生門』を読んで ☆ 変更内容をすべてドライブに保存しました

送信

④ 感想を読み上げたり、生徒相互で確認させたりし、新たな気付きを与えることで学習意欲を高めさせる。

読んで感じたことや疑問点を挙げてください。

② Google スプレッドシートにより共有することもできる。

回答

比喩表現が多く使われている

下人の「にきび」の意味は何か

下人の高度は人の意見に左右されやすい気がする

下人はこの後、どうなったのか気になった。

老婆の描写が、すごく具体的で不気味だった。

	手 順	ポイント
①	授業者は授業前に Google フォームを活用し、感想入力シートを作成しておく。	・ あわせてQRコードを作成しておく。
②	初読後、生徒は自身の端末を活用してQRコードを読み取り、Google フォームに感想等を入力する。	・ フォーム形式を「段落」とすると、長文入力ができる。
③	黒板等に Google フォームの回答を投影し、各生徒の感想や疑問点をすぐに共有する。	・ 文字が教室後方の生徒にも見えるように留意する。
④	他の生徒の意見に触れることで新たな気付きを与え、今後の学習への意欲を高めさせる。	・ 感想を読み上げるなどし、生徒に気付きを促す。

C 2 協働での意見整理（40分）

活用レシピ②

◎ Google Jamboard を活用し、「羅城門」と『羅生門』の相違点をまとめ、作者の意図や思いを考えさせる。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google Jamboard」

【活用の流れ】

③書き込んだ付箋を項目別に分類し、情報を整理させる。

①グループ内でファイルを共有し、自身の端末を活用して学び合わせる。

	手 順	ポイント
①	グループで1名の生徒が Google Jamboard のファイルを開き、グループ内でファイルの共有を行う。	・自身の st. spec. ed. jp アカウントで入力させる。
②	各生徒が自身の端末から Google Jamboard のファイルを開き、付箋機能を活用して「羅城門」と『羅生門』の相違点を書き込む。	・予め付箋の色を決めさせておく。 ・簡潔な表現でまとめさせる。
③	書き込んだ付箋を分類し、相違点の比較から見えるそれぞれの作品の特徴を話し合う。	・特徴を付箋でまとめさせる。
④	作成した Google Jamboard を Google Classroom に投稿し、クラス全体で気付いたことを共有する。	・発表時には Google Classroom に投稿したものをスクリーン等に投影する。



現代社会「持続可能な開発目標 (SDGs) と私たち」

目標

○現代の諸課題について当事者意識をもち、問題解決に向けて多面的・多角的に考察する。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ I C T 活用例
①	○持続可能な開発目標 (SDGs) とは何かを理解する。	<p>◆具体的事例を紹介し、課題意識をもたせる。</p> <p>活用レシピ① A 1</p> <p>◎プロジェクトを活用して関連動画を視聴し、SDGs の策定の経緯や現代の世界の諸課題について理解させる。</p>
②	○SDGs の 17 の目標でダイヤモンドランキングを作成する。	<p>◆他者に説明できるよう、ランキングの理由も考えさせる。</p> <p>活用レシピ② C 2</p> <p>◎ Google Jamboard を活用し、ダイヤモンドランキングを作成させる。</p> <p>◆ランキングが似ている生徒で 4、5 人のグループをつくり、共有させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 SDGs 私たちが取り組むべき課題は _____ 私たちにできることは _____ </div>		
③	○グループごとに、選んだ目標について、世界の現状や目標達成までの課題を調べる。	<p>◆調べる項目や内容について、ある程度の方向性を持たせる。</p> <p>◆複数のサイトで調べ、情報の信頼性にも注意するよう促す。</p> <p>活用レシピ③ C 3</p> <p>◎ Chromebook を活用し、情報収集をさせる。調べた内容は Google スプレッドシートで共有する。また、画像やグラフなどは Google ドライブで共有する。</p>
④	○世界や日本での取り組みを調べ、自分たちにできることを考察する。	<p>◆ Google Jamboard を活用し、自分たちにできることを話し合わせる。</p>
⑤	○発表資料を作成する。	<p>◆グループごとに資料を作成させる。</p> <p>活用レシピ③ C 3</p> <p>◎グループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。</p>
⑥	○グループごとの発表 ○学習のまとめ	<p>◆事前に発表の仕方を確認しておく。</p> <p>◆ Google フォームを活用し、相互評価を行う。</p> <p>◆他のグループの発表を踏まえ、自分の考えを書かせる。</p>

A 1

教師による教材の提示（50分）

活用レシピ①

◎プロジェクタを活用して関連動画を視聴し、SDGsの策定の経緯からや現代の世界の諸課題について理解させる。

使用するアプリ等

プロジェクタ、YouTube、
JAPAN SDGs Action Platform（外務省HP）等

【活用の流れ】

①プロジェクタでHPや動画を投影する。



②調べ学習を行う際に参考となるサイト等を紹介する。



JAPAN SDGs Action Platform(外務省HP)より

	手 順	ポイント
①	黒板等にHPや動画を投影し、具体的事例を紹介し、知識・理解や課題意識の共有を図る。	・ 投影する資料や紹介する事例を精選する。
②	今後、各自での調べ学習がしやすいよう、参考となるサイトや調べ方を紹介する。	・ 情報の提供元に留意しながら情報を取捨選択させる。
③	授業で利用した動画や紹介したサイト等をGoogle Classroomで共有する。	・ 授業内容の復習や情報収集を促す。

C 2

協働での意見整理（50分）

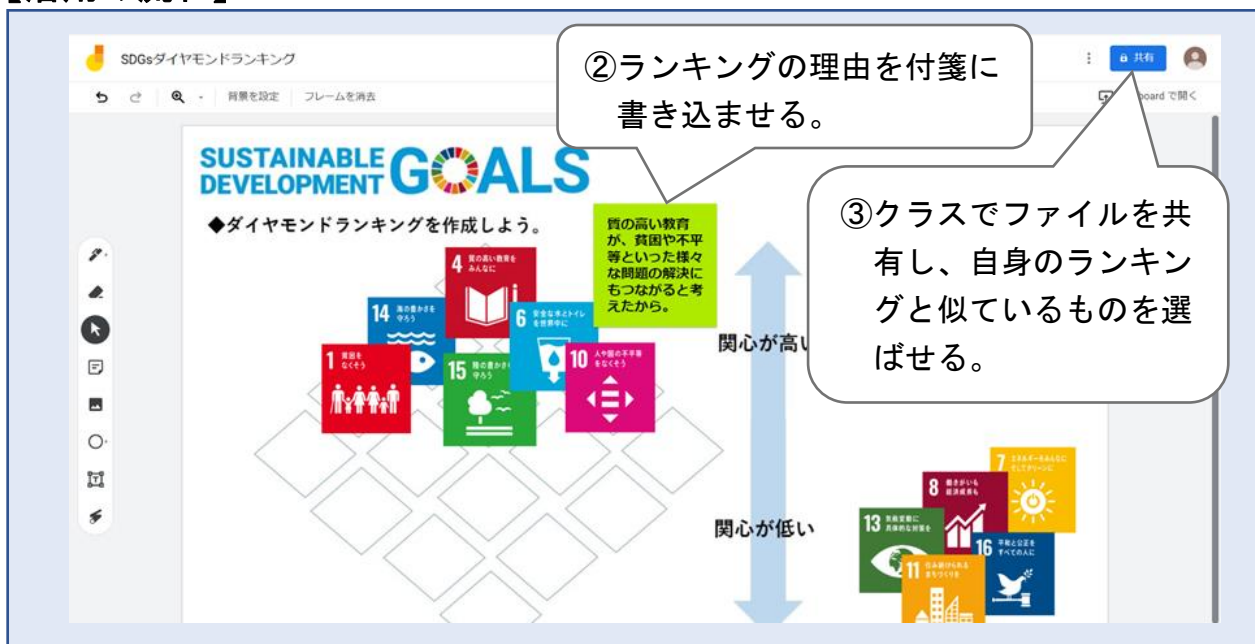
活用レシピ②

◎ Google Jamboard を活用し、ダイヤモンドランキングを作成させる。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google Jamboard」

【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	各生徒が自身の端末から Google Jamboard のファイルを開き、ダイヤモンドランキングを作成する。	・テンプレートを作成しておく。
②	上位に選んだものは、その理由を付箋に書き込む。	・簡潔な表現でまとめさせる。
③	作成した Google Jamboard のファイルをクラスで共有する。また、ランキングが似ている生徒で班を編成し班内で各自の考えを共有する。	・1班5名程度とし、上位の項目が似ている生徒で編成する。

C3

協働制作（150分）※50分×3

活用レシピ③

- ◎情報収集をし、調べた内容を共有させる。
- ◎プレゼンテーションアプリを活用し、発表資料を作成する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google スプレッドシート」

G Suite アプリ「Google スライド」

【活用の流れ】

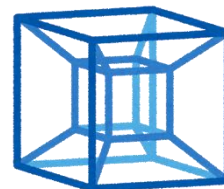
① Google スプレッドシート作成例。

② Google スライド作成例。

The screenshot displays two Google Workspace applications side-by-side. On the left is a Google Sheet titled '1班 調査' (Class 1 Survey) with columns for '環境問題' (Environmental Problem), '内容・原因' (Content・Cause), and '影響' (Impact). It lists '海洋ゴミ問題' (Marine Debris Problem) and '水質汚染' (Water Pollution). On the right is a Google Slide titled '1班 テーマ 「地球環境を守る」' (Class 1 Theme 'Protecting the Earth Environment'). It includes a '目標' (Goal) section with icons for various environmental issues and a text box asking about current climate change and environmental problems.

「ノート」を活用し、発表のための原稿を作成する。

	手 順	ポイント
①	各自が調べた内容を班ごとの Google スプレッドシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる項目を絞り、提示する。 ・共同編集により、情報を共有しながら調べさせる。
②	スプレッドシートの内容をもとに、Google スライドで資料を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに共同編集をさせる。 ・1人1枚以上のスライドを作成させる。 ・発表用の原稿も作成させる。
③	プロジェクタを使用し、黒板等に投影しながら発表する。また、他の班の発表の評価等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・制作物は、Google Classroom等に提出させる。 ・相互評価に Google フォームを活用する。



数学B「空間座標とベクトル」

目標

○空間座標の概念を理解し、意味や表し方について具体的なイメージをもてるようにする。それをもとに、空間におけるベクトルについての理解を深め、空間図形に応用し、考察する力をつける。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ I C T 活用例
①	○空間座標について導入する	<p>◆座標の概念を平面から空間に拡張させるため、視覚的な仕掛けが重要となる。</p> <p>活用レシピ① B 3</p> <p>◎ GeoGebra（ジオジェブラ）を活用し、実際に空間座標について視覚的に把握する活動を行う。</p>
②	○空間のベクトル	<p>◆平面のベクトルと比較しながら、空間でのベクトルの扱いについて導入を行う。</p> <p>◎前時で使用したアプリ等を黒板に投影するなどして、生徒の理解をサポートする事もできる。</p>
③	○空間のベクトルの成分	◆平面のベクトルでの学習事項を、空間の概念にそれぞれ対応させるだけに留まらず、視覚的なイメージを持たせる事が理解を深める事につながる。
④	○空間のベクトルの内積	◎空間における2つのベクトルのなす角などは、アプリを用いて黒板に投影するなどすると、生徒の理解の補助となる。
⑤	○空間の位置ベクトル	<p>活用レシピ② B 1</p> <p>◎ Google フォームを活用し、小テストを実施する。また、集計などから事後指導にも役立てる。</p>
⑥	○応用問題	<p>◆既習事項を活用する内容にとどまらず、そこから更に新たな発見ができるような問題設定を行う。</p> <p>例：ベクトルの終点の存在範囲の問題 → 係数 s, t, u を変化させながら考察</p> <p>活用レシピ③ C 2</p> <p>◎ Google ドキュメントの共同編集機能を活用し、思考する事によって出された意見の集約と共有を行う。</p>

B 3

思考を深める学習（20分）

活用レシピ①

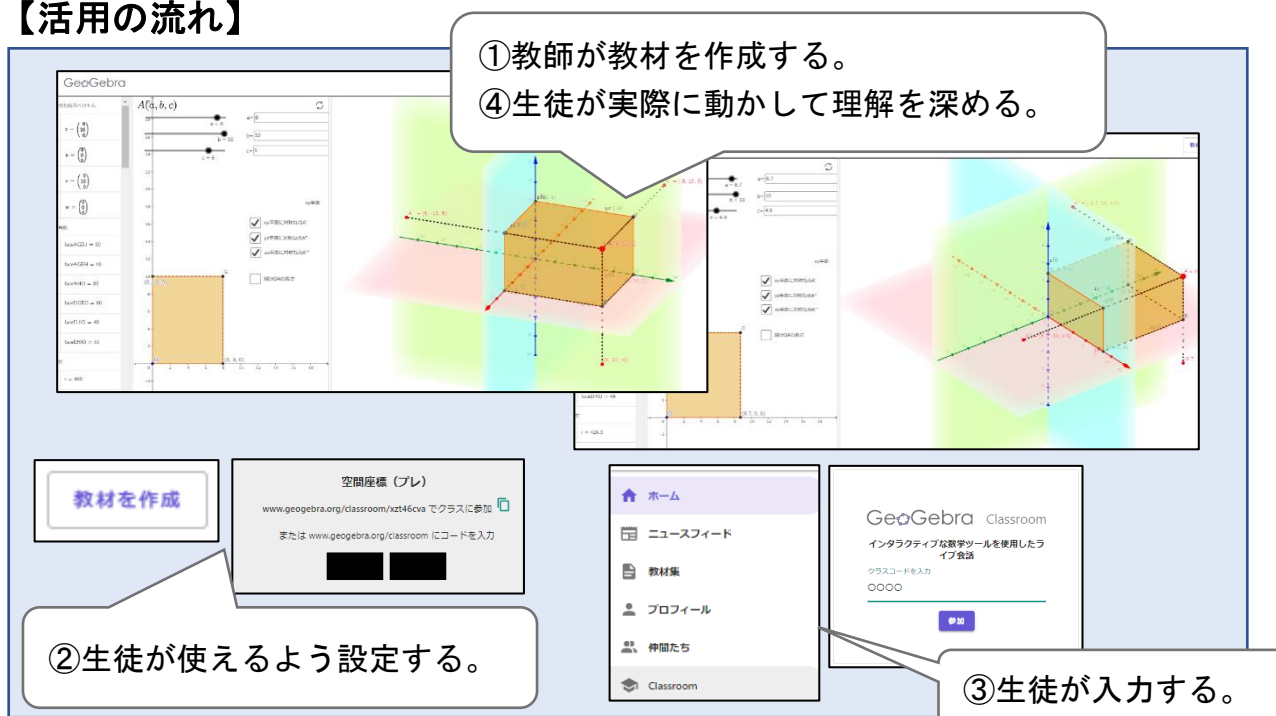
◎「GeoGebra（ジオジェブラ）」を活用し、実際に空間座標について視覚的に把握する活動を行う。

使用するアプリ等

動的数学ソフトウェア「GeoGebra」

<https://www.geogebra.org>

【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	教師が事前にソフトについて研究し、教材を作成する。	・ 生徒が扱いやすいよう工夫して作成する。
②	「教材を作成」のボタンから、クラスコードを発行する。	・ 共有の操作を教師が把握しておく必要がある。
③	生徒が Google Classroom からコードを入力する。	・ QRコードを利用するなどし、アクセスを単純化する。
④	生徒が実際に操作し、理解を深める。	・ ただ操作させるだけでなく、問題の提示も行うと良い。

B 1

個に応じた学習（5分）

活用レシピ②

◎「Google フォーム」を活用し、小テストを実施する。
また、集計などから事後指導にも役立てる。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google フォーム」
「Google スプレッドシート」

【活用の流れ】

① Google フォームで小テストを作成し、実施。

②得点率、正答率を自動で集計できる。

③表形式で集計&保存できる。

I
C
T
活
用
レ
シ
ピ

	手 順	ポイント
①	教師が小テストを作成し、QRコードなどを利用してアクセスさせ、実施する。	・数式が入力できない事もあるので、「画像」として挿入する方が良い。
②	得点率や正答率を自動で集計できる。	・正答率から生徒の理解状況の把握に努め授業改善を図る。
③	生徒ごとに回答を集約できるため、フィードバックにも役立つ。	・習熟の状況を段階的に見る事で、評価の材料などとして利用できる。

C 2

協働での意見整理（30分）

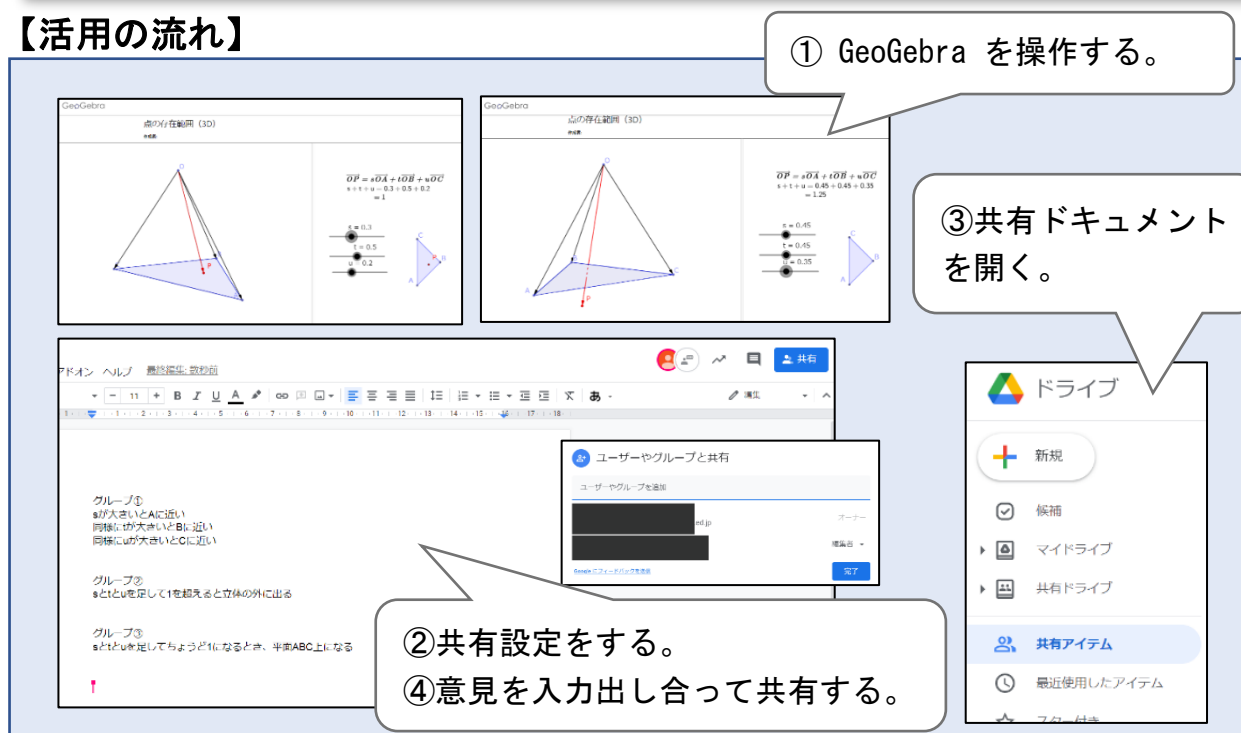
活用レシピ③

◎「Google ドキュメント」の共同編集機能を活用し、思考する事によって出された意見の集約と共有を行う。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google ドキュメント」
動的数学ソフトウェア「GeoGebra」

【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	教師が事前にソフトについて研究し、教材を作成し、生徒に操作させる。	・ 生徒が扱いやすいよう工夫して作成する。
②	Google ドキュメントの共有設定を行う。	・ 共有の操作を教師が把握しておく必要がある。
③	生徒は Google ドライブの「共有アイテム」から Google ドキュメントを開く。	・ 操作手順を投影するなどして、アクセスの補助をする。
④	生徒はグループ内で出された意見等を入力していき、クラス全体に共有していく。	・ 他グループの意見も参考にしながら操作をさせる。



地学基礎 地球の変遷「宇宙、太陽と地球の誕生」

目標

- 宇宙の誕生、及び太陽系の誕生について理解させるとともに、地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す条件を備えた惑星となった過程を理解させる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT活用例
①	○太陽系の構造と銀河系の構造をつかむ	<p>◆宇宙における時間と空間の感覚を養い、宇宙空間がいかにスカスカな空間であるかを認識させる。</p> <p>活用レシピ① B2</p> <p>◎ Mitaka（ミタカ）を活用し、太陽系や宇宙の大規模構造について理解を深める。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 学習課題 宇宙空間の中で地球だけ生命が存在できる理由を考えよう </div>		
②	○地球の形成の歴史を理解する	◆大気組成、海洋、地球内部の層構造を形成する経緯をマグマオーシャン等の諸現象と関連付けさせる。
③	○太陽系の誕生、地球型惑星と木星型惑星の違いを理解する	◆太陽からの距離と惑星の主成分について、太陽系の形成モデルと関連付けさせる。
④	○太陽系天体の特徴を理解する	<p>◆惑星の他にも、衛星、小惑星などに触れ、各天体の特徴を捉えさせる。</p> <p>◎再度「Mitaka」を活用し、様々な天体の特徴について調べる。また、必要に応じて、川口市立科学館のホームページや「アプリ Solar Walk」なども紹介する。</p>
⑤ ⑥	○学習内容のまとめ ○発表資料の作成	<p>◆宇宙空間の中で地球だけ生命が存在できる理由を、グループごとにまとめ、発表用資料を作成させる。</p> <p>活用レシピ② C3</p> <p>◎グループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。</p>
⑦	○学習内容の振り返り	<p>◆各グループの発表を参考に、自分の考えを整理させる。</p> <p>◆生徒の実態に応じて、生命の存在理由について、発表内容以外の理由を考えさせる。</p>

B 2

調査活動（40分）

活用レシピ①

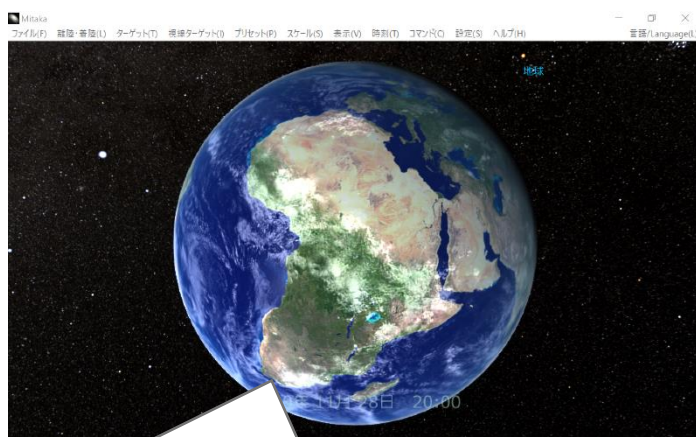
◎ Mitaka を活用し、太陽系や宇宙の大規模構造について理解を深める。

使用するアプリ等

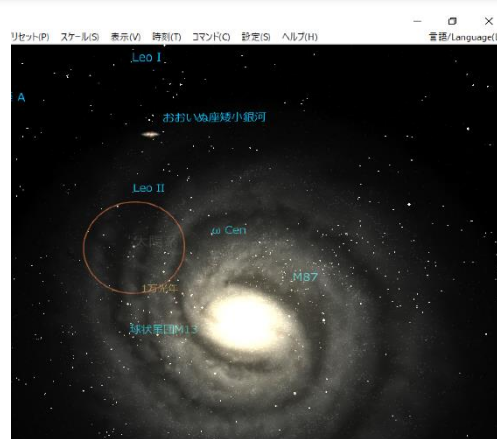
国立天文台シミュレーションソフト「Mitaka」

<https://4d2u.nao.ac.jp/html/program/mitaka/>

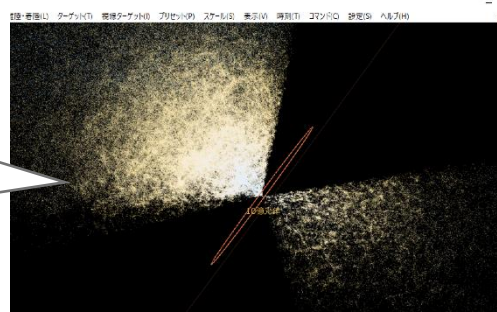
【活用の流れ】



①操作に慣れ、地球の全体像を見る。



②銀河系、宇宙の果てまでズームアウトする。



	手 順	ポイント
①	メニューバー「着陸・離陸」を選び、地球の姿全体を見る。	・回転やズームイン・アウトに慣れさせる。昼と夜の区別や、地球表面に接近し着陸させる。
②	太陽系、銀河系、さらに宇宙の果てまでズームアウトする。	・横にも回転させ銀河系が円盤状に分布していることに気づかせる。 ・宇宙がいかにスカスカな空間であるか認識させる。
③	太陽系の惑星の情報を見る。	・ターゲットやプリセットなど様々なメニューバーを活用する。

C 3

協働制作（80分）※40分×2

活用レシピ②

◎グループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google スライド」

【活用の流れ】

①タイトルのみを記し、発表の流れを考える。

②文章は箇条書きにとどめ、長文にならないようにする。

	手 順	ポイント
①	各スライドのおおまかな流れや段落構成を計画し、グループ内でページ作成を割り振らせる。	・スライド全体の流れをグループで共有させ、各ページの詳細の作成は後で行う。
②	文字、図や写真のバランスを指導しながら各ページを作成させる。	・写真を使用する場合、著作権について説明する。
③	発表用原稿を作成し、段落構成や前後のページのつながりを再確認する。	・必要に応じて、ページの順番の入れ替えなどの修正を指示する。



保健「現代社会と健康」

目標

現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 現代社会と健康について理解を深めること。

イ 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT活用例
①	○オリエンテーション ○テーマの決定	◆班ごとにテーマを決め、その内容についての理解を深めさせる。
②	○教材研究 ・学習のねらいの設定 ・授業案の作成	◆テーマについて理解を深め、学習のねらいを明確にさせる。 ◆授業案を作成し、活動の見通しを立てさせる。 ◎ Google ドキュメント（班で共有し編集する。）
③	○教材研究 ・スライドの作成	◆授業案に沿ったスライドを作成させる。 ◆教科書に準拠した内容で作成させる。 ◎ Google スライド（班で共有し編集する。） 活用レシピ① C3 ◎班ごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。
④	○教材研究・授業準備 ・スライドの作成 ・リハーサル	◆発表方法を説明し、発表に向けてリハーサルさせる。 ◆班員全員が同じレベルで発表できるようにする。 ◎ Google スライド（班で共有し編集する。）
⑤	○授業準備 ・リハーサル ○発表・評価	◆各グループに分かれて発表させる。 ◎ Google スライド ◆発表後、評価させる。 ◎ Google フォーム ◆グループで出た質問等は一度班に持ち帰り、班でまとめて答える。 ○グループで答えられない場合は、支援する。
⑥	○発表・評価	活用レシピ② C2 ◎班ごとに全体で発表し、発表に対する評価や質問等をする。
⑦	○発表・評価	
⑧	○解説	○生徒が発表した内容を補足説明する。 ◆発表で理解できなかった内容を再度学習・整理させる。

C 3

協働制作（100分）※50分×2

活用レシピ①

◎班ごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google スライド」

【活用の流れ】

① Google スライドを共同編集で作成させる。

② 図やフリー素材を挿入させる。

④ 「ノート」に読み原稿を作成し作成者で共有させる。

	爽快期	ほろ酔い期	酩酊初期	酩酊極期	泥酔期	昏睡期
症状	陽気になる、皮膚が赤くなる、判断力が少し鈍る	ほろ酔い気分、手の動きが活発になる、体温が上がる	気が大きくなる、立てばふらつく、怒りっぽくなる	何度も同じことをしゃべる、千鳥足、吐き気	意識がはっきりしない、立てない	揺り起こしても起きない
お酒の量(ビール)	中瓶1本	中瓶2本	中瓶3本			

お酒は飲む量や速さにより、その体にもたらす影響は変わります。自分の体質や飲める量を理解し、お酒をゆっくり飲むと、最初は気分が良くなったり、おしゃべりになったりします。ここでやめれば楽しいお酒ですが、これ以上に飲んでしまうと、血液中のアルコールが増えすぎて、足がおぼつかなくなり、呼吸が速くなり、気分が悪くなって吐いたりします。

	手 順	ポイント
①	各班で選択した内容について、Google スライドで資料を作成させる。	・ 班で一つのファイルを共同編集させる。(st. spec. ed. jp アカウント利用)
②	図の挿入などフリー素材の検索方法や挿入方法を指導し、資料を作成させる。	・ 資料や素材の扱い方やインターネットでの情報の取得について指導する。
③	作成した Google スライドを班員で確認し、修正・補足させる。	・ より良くするという視点で積極的に意見交換させる。
④	発表に向けて、読み原稿を作成させる。	・ 班員による説明のズレが生じないように読み原稿を作成する。

C 2

協働での意見整理（150分）※50分×3

活用レシピ②

◎班ごとに全体で発表し、発表に対する評価や質問等をする。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google フォーム」

【活用の流れ】

飲酒と健康

本日の内容について以下の問いに回答し、送信し

*必須

② Google フォームで入力
フォームを作成させる。

理解度テスト

アルコールには、脳や脊髄などの中枢神経の働きを、どのようにする作用がありますか？ *

- ☐ 活発
☐ 抑制
☐ 停止

飲酒と健康に関する質問

回答を入力

評価

発表について評価してください。



③ QRコードを作成させる。

	手 順	ポイント
①	各班で作成した Google スライドを基に、全体で発表させる。	・班で共同作成した Google スライドをプロジェクタで投影し発表させる。
②	入力フォームを作成させる。	・内容の理解度や質問、発表の評価のための Google フォームを作成させる。
③	QRコードを作成させる。	・QRコードを作成し、Google フォームへアクセスしやすくする。
④	発表に対する評価や質問等を Google フォームに入力し、送信する。	・個人端末より Google フォームで送信させる。



英語表現Ⅱ「英語でニュース番組を作ってみよう」

目標

○ニュース番組を作成することにより、調査する力、原稿を書く力、プレゼンする力、情報をまとめる力を育成する。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT活用例
①	○現在深刻になっている社会問題について知る	<p>◆難しい社会問題も、高校生向けにシンプルにわかりやすくまとめて提示する</p> <p>◎ YouTube 等であるトピックの動画を全員で視聴し、生徒に問題の提起を行い、取り組むべき内容を把握させる。</p>
	<div>学習課題</div> <p>～について、多くの人に問題提示しよう</p>	
②	○それぞれが、その問題に関して、どう思うかを知る	<p>◆いろいろな意見が許されるということを事前に周知しておく</p> <p>活用レシピ① C1</p> <p>◎ Google フォームを活用し、生徒が入力した意見・感想・疑問点をその場で全体共有。他者の意見に触れる。</p>
③	○詳細について、情報収集	<p>◆個別学習。各々で情報収集を行う。</p> <p>◎各パソコン、タブレットの検索エンジンで詳細を調査。</p>
④	○発表資料の作成	<p>◆問題になっている点について、班ごとに資料を作成させる。</p> <p>活用レシピ② C3</p> <p>◎グループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。</p>
⑤	○班ごとの発表 ○発表内容に関するコメント（意見・質問等） また、そこから見えるものを考える	<p>◆事前に発表の仕方を確認しておく。発表は動画として記録。</p> <p>◎ Google フォームを活用し、生徒が入力した意見・感想・疑問点をその場で全体共有。他者の意見に触れる。</p>
⑥	○発表内容を動画にする ○他の班の動画視聴 ○他校への公開、発信	<p>◆動画は要点を抑え、短めに作成する。</p> <p>◎動画編集ソフトを使用し、それぞれの意見、状況を編集し、まとめる。復習として動画の視聴をする。</p>

C 1 発表や話し合い(20分) ※10分×2

活用レシピ①

◎ Google フォームを活用し、生徒が入力した感想・疑問点をその場で共有し、他者の意見から学ぶ機会を設定する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google フォーム」

I
C
T
活
用
レ
シ
ピ

What do you think about the Galapagos Islands?

フォームの説明

Is it a paradise for the animals and plants?

説明

☐ I think so

☐ No. I don't think so.

☐ It depends

☐ 選択肢を追加 または 「その他」を追加

必須

	手 順	ポイント
①	授業者は授業前に Google フォームを活用して入力フォームを用意する。	・合わせてQRコードを作成しておく。
②	授業での説明で最後に小テストを Google フォームで行うことを告知しておく。	・良い点、悪い点を簡潔にまとめられるように板書を工夫。

C 3

協働制作（60分）

活用レシピ②

◎班ごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google スライド」

【活用の流れ】

The screenshot shows the Google Slides interface. The top bar includes the title '無題のプレゼンテーション' (Untitled presentation), navigation icons, and a '共有' (Share) button. The main editing area shows a slide titled 'Is it a paradise for the animals and plants?' with a poll question 'I think ...' and a photo of a Galapagos tortoise. The left sidebar shows a thumbnail of the slide. Three callout boxes provide instructions:

- ① Google スライドを共同編集で作成させる。
- ② 図やフリー素材を挿入させる。
- ③ ノートに読み原稿を作成し作成者で共有させる。

	手 順	ポイント
①	各班で選択した内容について、Google スライドで資料を作成させる。	・ 班で一つのファイルを共同編集させる。(st. spec. ed. jp アカウント利用)
②	図の挿入などフリー素材の検索方法や挿入方法を指導し、資料を作成させる。	・ 資料や素材の扱い方やインターネットでの情報の取得について指導する。
③	発表に向けて、読み原稿を作成させる。	・ 班員による説明のズレが生じないように読み原稿を作成する。
④	発表する。	・ 画面キャプチャソフトで録画しておく。



家庭総合「食生活の科学と文化」

目標

○食と人との関わりを踏まえながら、各ライフステージの食生活の特徴について理解し、生涯を見通した食生活の管理ができるようにする。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ I C T 活用例
①	○食生活を取り巻く課題 食の安全と衛生、日本と世界の食文化について理解する。	◆教師が生徒の実態把握をするため、生徒の現状理解と課題発見につなげる。 活用レシピ① C 1 ◎ Google フォームを活用し、自分・家族の食生活実態アンケートを実施する。 活用レシピ② A 1 ◎ Google スライド、書画カメラ、テレビモニタ、プロジェクタを活用して、理解を深めるための環境整備を行う。
②	○栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活についての理解と技術を身に付ける。	◆指導の効果を高めるための実験・実習を用いる。 活用レシピ③ B 5 ◎ Google Classroom の動画を視聴して、実習の反転学習及び実習中の作業を確認する。
③	○HP（ホームプロジェクト）の計画	◆生徒が課題解決策を検討時に情報収集するための環境整備に配慮する。 活用レシピ④ B 2 ◎ Chromebook を活用した情報収集及び実践計画を作成する。
④	○HPの実践（宿題）	◆休業中の生徒対応が可能な環境をつくり、生徒のより良い実践につなげる。 活用レシピ⑤ B 5 ◎ Google Classroom への課題提出と実践中の質問を受付し、実践報告書を作成して提出させる。

C 1

発表や話し合い（15分）

活用レシピ①

◎ Google フォームを活用し、自分・家族の食生活実態アンケートを実施する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google フォーム」

【活用の流れ】

① Google フォームでアンケートを作成する。

②回答で、アンケート集計ができ、生徒の実態把握や具体的な状況を踏まえた授業づくりに繋げることができる。

	手 順	ポイント
①	Google フォームで、事前にアンケートを作成する。	・QRコードを作成し、生徒が取り組みやすい環境を作っておく。
②	生徒が入力すると、回答シートにある Google スプレッドシートで、集計ができる。	・アンケート集計の手間がかからず、グラフ形式で可視化できる。

A 1

教師による教材の提示（50分）

活用レシピ②

◎ ICT機器を活用して、理解を深めるための環境整備を行う。

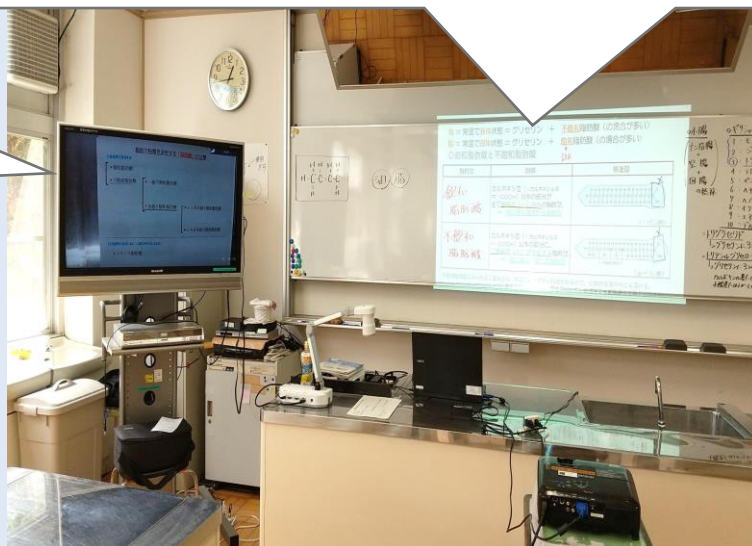
使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google スライド」
書画カメラ、テレビモニタ、プロジェクタ

【活用の流れ】

①授業の板書（Google スライド）をプロジェクタで投影する。

②書画カメラで、手元の物を映す。



	手 順	ポイント
①	授業を進める Google スライドをプロジェクタで投影する。	・黒板（ホワイトボード）の半分を使用し、常時提示したいワードや補足を書き込むスペースを空けておく。
②	書画カメラと、テレビを接続する。	・手元の動き、実物や資料投影等、理解を深めるための提示用とする。

B 5

家庭学習（50分）

活用レシピ③

◎ Google Classroom の動画を視聴して、実習の反転学習及び実習中の作業を確認する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google Classroom」

【活用の流れ】

① Google Classroom を作成。

② ストリームに調理実習の動画を添付し、各自に視聴させる。

	手 順	ポイント
①	Google Classroom を作成する。	・教科の Classroom を作成し、授業に関する連絡等に活用する。
②	ストリームに動画を添付する。	・調理実習では、調理手順について動画を活用し、視覚的に理解を促す。

B 2

調査活動（100分）※50分×2

活用レシピ④

◎ Chromebook を活用した情報収集及び実践計画を作成する。

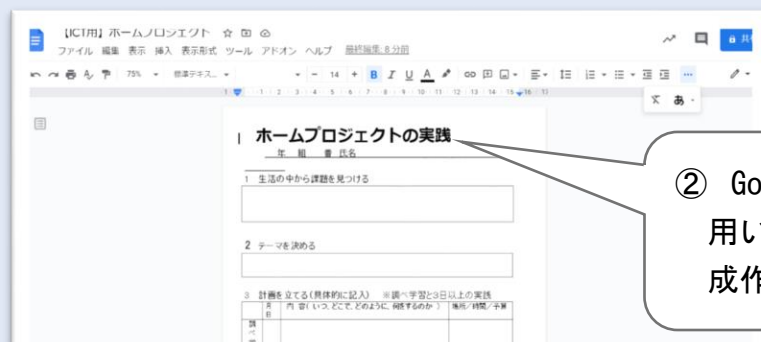
使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google ドキュメント」

【活用の流れ】



①個人端末を用いて、課題解決に向けた情報収集をする。



② Google ドキュメントを用いて、各自で実践計画作成作業をおこなう。

	手 順	ポイント
①	個人端末等を用いて、自分のホームプロジェクトに関する調査や、情報を収集する。	・各自の取組みのため、時間を有効に活用できる。
②	①で作成した資料を用いて、各自が課題を実践し、結果をまとめる。	・ Google ドライブを活用し、自宅で課題を実践し、課題作成（編集）する。

B 5

家庭学習（50分）

活用レシピ⑤

◎ Google Classroom への課題提出と実践中の質問を受付し、実践報告書を作成して提出させる。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google Classroom」
「Google ドキュメント」

【活用の流れ】

① Google Classroom の「授業」に課題の指示・提出期限についての連絡と、課題資料を添付する。

②生徒は、課題を Google ドライブに提出する。

	手 順	ポイント
①	Google Classroom の「授業」に、課題を作成する。	・課題作成（ストリーム投稿）すると、生徒の st. spec. ed. jp アカウントに通知される。
②	生徒は、作成した課題を Google ドライブに提出する。	・提出状況の把握ができる。



社会と情報「情報社会に関する法規や制度と個人の責任」

目標

○情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任について理解することができる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT活用例
①	○個人情報の保護 情報セキュリティ 暗号化	<p>◆ Google Classroom を活用した授業展開により、課題提示、提出、共有、発表、評価を一元化していく。</p> <p>◆ 共有するファイル等は事前に教員が設定しておく。または、中間モニタを用いて、生徒を誘導しながら共有設定する。</p> <p>活用レシピ① C2</p> <p>◎ Google Jamboard を利用して、グループごとに情報セキュリティについての意見を出し合う。</p>
②	○知的財産権 著作権 産業財産権	<p>◆ Web サイトを参考に最新の情報や権利の具体例を調べる 例 CRIC（公益社団法人著作権情報センター） https://www.cric.or.jp/ J-PlatPat（特許情報プラットフォーム） https://www.j-platpat.inpit.go.jp/</p>
③ ④ ⑤	○共同編集による Web 小テストの作成 解説用発表資料作成	<p>◆ 前時までの内容についてグループごとに深め、テーマを決めて共同編集を行う。テーマに関する択一式問題を複数作成するとともに、解答についての解説をグループで作成する。</p> <p>◆ 共有するファイル等は事前に教員が設定しておく。または、中間モニタを用いて、生徒を誘導しながら共有設定する。</p> <p>活用レシピ② C3</p> <p>◎グループごとに次の2つを作成する。</p> <p>1) Google フォームを利用して、学んだことに関する小テスト問題、解答を作成する。</p> <p>2) プレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、問題の解説を発表するための資料を作成する。</p>
⑥	○成果物について Web 小テストへの回答 グループごとの発表	<p>◆ 各グループが作成した問題に取り組み、正答数をグループごとに競う。解答後、各グループから問題の解説を発表する。</p> <p>◆ 教員が表計算ソフトを用いて、グループごとの正答数を可視化して瞬時に比較できるようにする。</p>

C 2

協働での意見整理（50分）

活用レシピ①

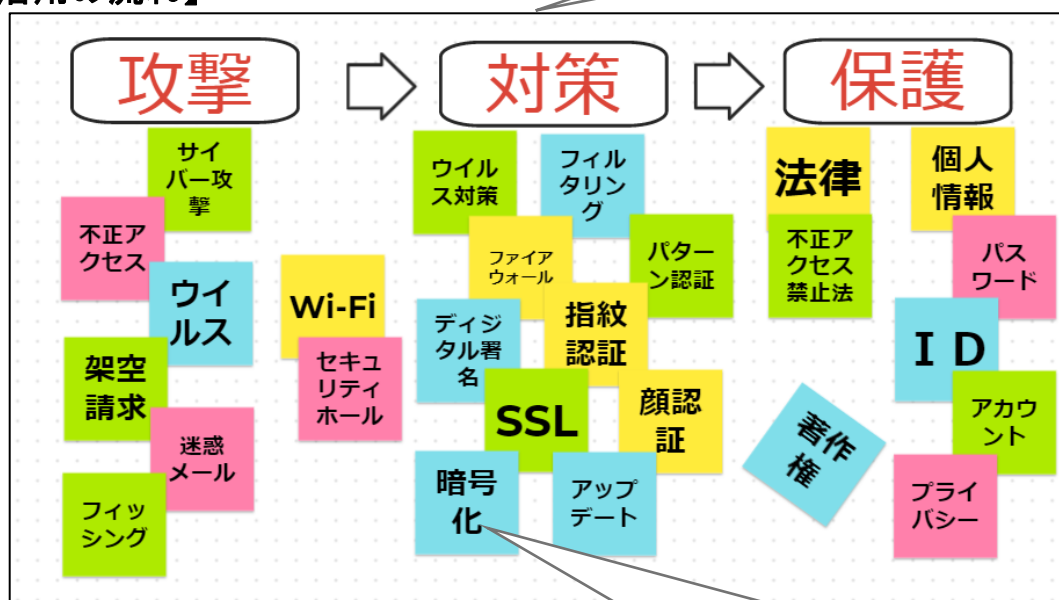
◎ Google Jamboard を利用し、グループごとに情報セキュリティについての意見を出し合う。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google Jamboard」

【活用の流れ】

Google Jamboard での作業完成例。



同じ色の付箋は同一生徒が入力した内容。

	手 順	ポイント
①	何も見ないで、情報セキュリティという言葉から連想されるキーワードをグループで出し合う。キーワードをたくさん挙げさせるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 付箋の色を個人毎に決める。 コンピュータ教室の横並びで多い4名を1班とする。
②	教科書の該当ページを開き、キーワードを追加する。知らなかった語句について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> 付箋の入力や移動方法等は中間モニタで指示する。
③	挙げたキーワードについて班員で話し合い、分類する。	<ul style="list-style-type: none"> ペン機能やテキスト等を追加して分類を可視化させる。
④	各班の成果物を発表させ、クラス全体で内容を共有する。その後、生徒から挙げたキーワードについて、教員が解説を行う。	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ教室の画面共有機能（または中間モニタ）を用いて、各班の発表を行う。

C 3

協働制作（150分）※50分×3

活用レシピ①

◎ Google フォームで、学んだことの小テストと解答を作成する。さらにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、問題の解説を発表するための資料を作成する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google フォーム」

G Suite アプリ「Google スライド」

【活用の流れ】

知的財産権・小テ・Aグループ

Google フォームでの小テスト作成例。

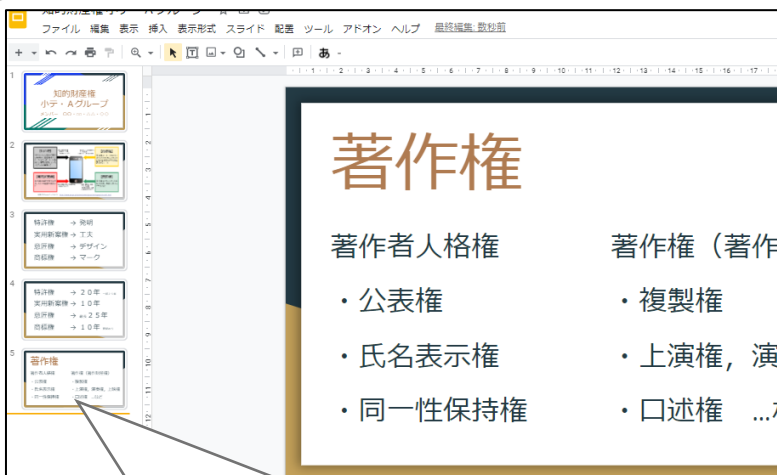
参考：特許庁 <https://www.jpo.go.jp/system/patent/gaiyo/seidogaiyo/chizai01.html>

*必須

図の①～④について、あてはまる産業財産権をそれぞれ選べ*



	意匠権	実用新案権	商標権	特許権
①	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
②	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
③	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
④	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>



共同編集で作成した Google スライドの例。

	手 順	ポイント
①	知的財産権について学んだことを、グループごとの共同編集により Google スライドにまとめる。	・ 1人1スライド（1ページ）制作するよう働きかける。
②	Google スライドでまとめている内容について、グループの代表者が Google フォームで小テスト形式に整える。	・ Google フォームの操作方法は中間モニタ等で指示する。
③	生徒は自身のグループ以外が制作した小テストに取り組む。各グループから、解説を発表する。	・ 制作物は、Google Classroom等に提出させる。
④	自動採点により、各グループが作成した問題について平均点などを教員からフィードバックする。	・ ルーブリックを活用した活動の振り返り等も行いたい。



原動機「自動車の発達と社会生活」

目標

○自動車の発達と社会生活にもたらす問題、自動車の構造、性能、安全性などの基本的なことがらについて学び、原動機の変遷および環境対策について主体的に考える力を身につけさせる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ I C T 活用例
①	○自動車の発達と原動機	◆自動車の発達と搭載された原動機について学び、さまざまな発明と改善について理解させる。 活用レシピ① B 1 ◎蒸気自動車・ガス機関・電気自動車・ガソリン機関の Google フォームにて良い点・悪い点を記入。
②	○自動車と社会と環境	◆自動車の普及とともに、大気汚染や振動、騒音などの環境問題および対策について調査する。 活用レシピ② B 2 ◎ Google Jamboard に世界地図を貼り付け、各国で打ち出している環境対策について話し合わせる。
③	○自動車と社会と環境の協議	◆日本で環境対策をするための方策を考える。 活用レシピ③ C 2 ◎ガソリン推進派とEV推進派でグループ分けして長所と短所、問題点などを Google スプレッドシートで共同編集機能を活用してまとめる。
④	○自動車の分類と構造	◆原動機的位置や駆動方式、法律による分類について理解させる。 活用レシピ④ B 1 ◎ Google フォームにて、原動機的位置と駆動方式についての小テストを行う。
⑤	○動力特性と走行性能	◆自動車の性能評価事項である動力性能・走行性能について学び、安全走行に必要な性能を確認する。走行時に発生する抵抗因子を理解させ、走行性能線図を読み取る。
⑥	○自動車の制動性能とタイヤ特性	◆安全に操縦させるためのブレーキ操作やかじ取り操作について学び、制動特性について理解させる。
⑦	○学習問題の振り返り ○発表資料の作成	◆ここまで学んだことを振り返り、ガソリン推進派とEV推進派で混合編成した班を作成し、班毎に資料を作成し発表させる。 活用レシピ⑤ C 3 ◎グループごとに Google スライドの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。

B 1

個に応じた学習（15分）

活用レシピ①

◎蒸気自動車・ガス機関・電気自動車・ガソリン機関の
Google フォームにて良い点・悪い点を記入。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google フォーム」

【活用の流れ】

自動車工学活用レシピ①

蒸気自動車の良い点

回答を入力

蒸気自動車の悪い点

回答を入力

ガス機関の良い点

回答を入力

ガソリン機関の悪い点

	手 順	ポイント
①	授業者は授業前に Google フォームを活用して入力フォームを用意する。	・合わせてQRコードを作成しておく。
②	授業での説明で最後に小テストを Google フォームで行うことを告知しておく。	・長所・短所を簡潔にまとめられるように板書を工夫。

B 2

調査活動（35分）

活用レシピ②

◎ Google Jamboard に世界地図を貼り付け、各国で打ち出している環境対策について調査させる。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google Jamboard」

【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	授業者は授業前に Google Jamboard を活用して世界地図を貼り付けたものを用意する。	・合わせてQRコードを作成しておく。
②	インターネットで調べた情報を付箋で貼り付ける。	・先進的に掲げている地域を確認させる。

C 2

協働での意見整理（30分）

活用レシピ③

◎ガソリン推進派とEV推進派でグループ分けして長所と短所、問題点などを Google スプレッドシートで共同編集機能を活用してまとめる。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google スプレッドシート」

【活用の流れ】

	A	B	C	D	E	F
1		ガソリン推進派				
2		長所				
3		① インフラが整備されている				
4		② 雇用が維持できる				
5		③ 車体本体が安い				
6		④ 4WDの設定がある				
7		⑤ 雪国で強い				
8		⑥				
9		⑦				
10		⑧				
11		⑨				
12		⑩				
13		短所				
14		① 排気ガスがでる				
15		② 燃費が悪い				
16		③ 原油を他国より買っている				
17		④				
18		⑤				
19		⑥				

	手 順	ポイント
①	授業者は授業前に Google スプレッドシートを活用してシートを用意する。	・合わせてQRコードを作成しておく。
②	ガソリン推進派とEV推進派で班分けを行う。	・同推進派で意見や考えを議論して、知識を深め整理する。

B 1

個に応じた学習（5分）

活用レシピ④

◎ Google フォームにて、原動機の位置と駆動方式についての小テストを行う。

使用するアプリ等

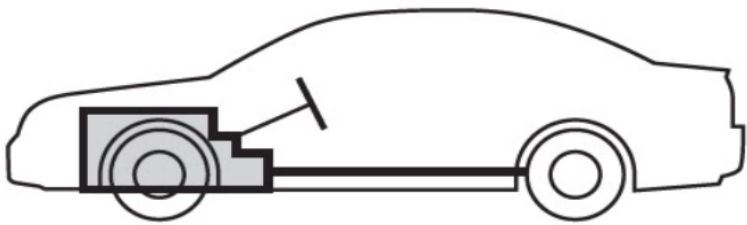
G Suite アプリ「Google フォーム」

【活用の流れ】

自動車工学活用レシピ④


*必須

エンジンの位置と駆動方式 1 *



回答を入力

エンジンの位置と駆動方式 2 *



	手 順	ポイント
①	授業者は授業前に Google フォームを活用して、エンジン位置と駆動方式を貼り付けたものを用意する。	・合わせてQRコードを作成しておく。

C 3

協働制作（40分）

活用レシピ⑤

◎グループごとに Google スライドの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google スライド」

【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	ガソリン推進派と E V 推進派で混合させた班分けを行っておく。	・ 活用レシピ③の状況より班分けを行う。
②	各推進派での議論。	・ 活用レシピ③で得た知識を互いにぶつけ合い議論させる。
③	班で発表することを意識させ、どのような話し合いを行ったか、班としてどういう結論を出したかを Google スライドにまとめる。	・ 発表者、まとめ、書記など役割分担させる。
④	各班より発表。	・ 自分の所属した班との違いを確認させる。



マーケティング「市場調査」

目標

○市場調査の目的、仮説の構築からその検証までの手順を学び、市場調査を行う課題を設定し、情報の収集を行う。市場調査で得られた情報などに基づいて仮説を立てるとともに、仮説を検証して報告書を作成する。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ I C T 活用例
①	○調査の目的や対象を話し合う。	◆マーケティングに主体的にかつ協働的に取り組む姿勢を促す。 ◆グループごとに調査の対象を決定させ、活動の最後に他のグループへの発表につなげるよう意識させる。
②	○調査する内容について、アイデアを出し合う。	◆ブレインストーミングのルールを確認する。 活用レシピ① C 2 ◎ Google Jamboard を活用し、アイデアを出し合う。
③	○調査項目の検討を行う。	◆アイデアを取捨選択し、調査目的や対象にあった調査項目になるように注意を促す ◎ Google スプレッドシートを活用し、調査項目やアンケート項目のリスト化を行う。
④	○調査目的に合った項目となるよう、さらに精査する。	◆グループでの話し合いを通して、アンケートに必要な項目を決定させる。
⑤	○調査項目を決定し、アンケートの作成を行う。	◆アンケートの趣旨や選択肢による分岐を考慮しながら、目的に沿ったアンケートが作成できるように工夫を促す。 活用レシピ② C 3 ◎ Google フォームを活用し、調査項目やアンケート項目を作成する。
⑥	○作成したアンケートを確認し、実施アンケートのテストを行う。	◆自分たちで実際にテストをしてみて、答えやすいアンケートかどうか検討する。
⑦	○作成したアンケートを他のグループに対して実施する。	◆作成した目的やアンケートの趣旨を発表し、実際にアンケートを行うとともに他のグループからの意見をもらう。 ◆アンケートの回答をもとに、調査分析につなげることを意識させる。

C 2

協働での意見整理（20分）

活用レシピ①

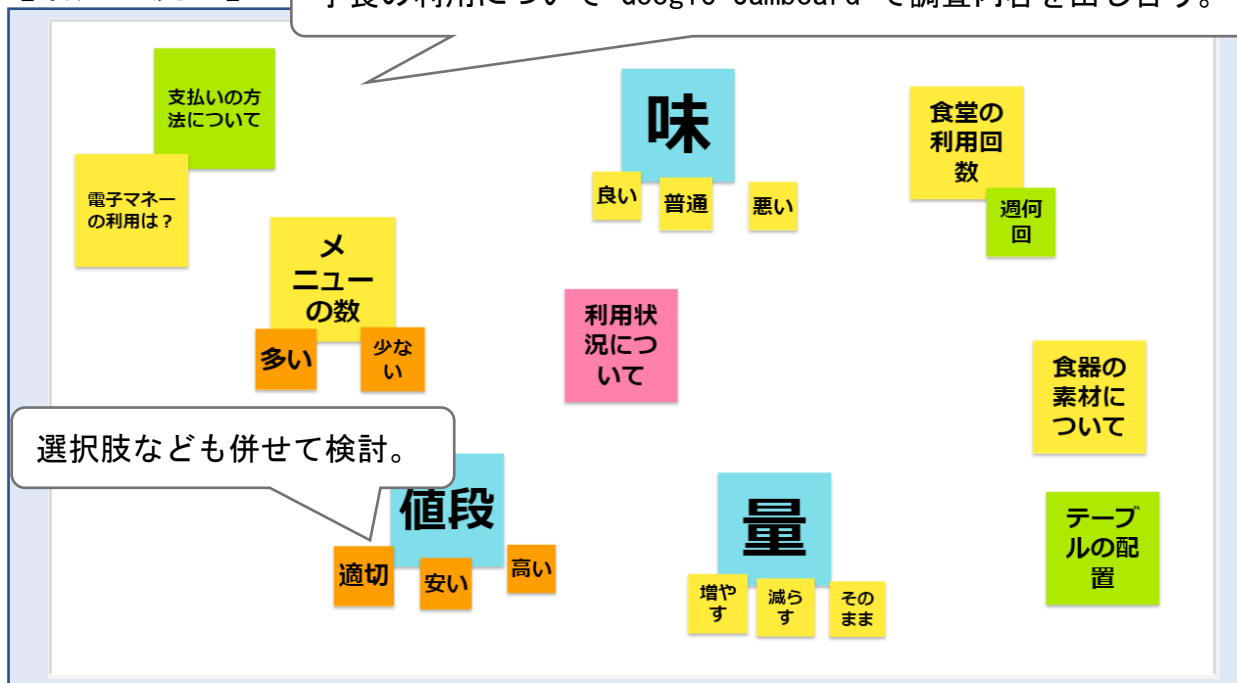
◎ Google Jamboard を活用し、アイデアを出し合う。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google Jamboard」

【活用の流れ】

学食の利用について Google Jamboard で調査内容を出し合う。



	手 順	ポイント
①	授業前に Google Jamboard のファイル「調査内容」をグループで共有をしておく。	・グループにより、使用するファイルを決めておく。
②	調査する目的や対象を確認し、調査内容のアイデアを入力する。（事実調査、意見調査、解釈調査）	・目的の似た調査内容などをグルーピングする。
③	他の人のアイデアに、自分のアイデアを追加する。	・調査したい項目に選択肢のアイデアがあれば追加する
④	調査項目を整理し、実際にアンケートを行う項目を決定する。	・適切な回答結果が得られるように、必要な項目に絞る。

C 3

協働制作（20分）

活用レシピ②

◎ Google フォームを活用し、調査項目やアンケート項目を作成する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google フォーム」

【活用の流れ】

アンケート項目を Google フォームで作成する。

事実調査の項目。

学食の利用に関するアンケート

学校食堂を皆さんが利用しやすくするためのアンケートにご協力ください。

あなたの学年を選択してください。

- ☐ 1学年
- ☐ 2学年
- ☐ 3学年

あなたの性別を選択してください。

- ☐ 男性
- ☐ 女性

学食の利用頻度は、どのくらいですか。

- ☐ 毎日利用する

意見調査や解釈調査の項目についてグループで決定したアンケート項目を作成する。

	手 順	ポイント
①	無題の Google フォームを作成して共有をかけ、分担してアンケート項目を作成する。	・ 代表の生徒が Google フォームを作成し、グループのメンバーに共有設定を行う。
②	協働でアンケート項目を作成し、回答方法や選択肢が適切かどうか、プレビューで確認しあう。	・ プレビューを適宜更新し、最新の内容を把握する。
③	グループ内で模擬の回答を入力し、データが適切に集計されるか確認する。	・ グループ内や他のグループにも協力をお願いする。
④	実際にアンケート調査を行うための方法について検討する。	・ URL の送信方法や QR コードの作成も検討する。



社会福祉基礎「社会福祉思想の流れと福祉社会への展望」

目標

○現在の子育て支援サービスや課題、問題となっていることについて身近なものとして学ばせ、実際に起きている諸問題について考察し、子ども家庭福祉の基本的内容を理解させる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT活用例
①	○日本における社会福祉	◆今までの取組みや地域福祉の成立について、理解させる。
②	○障害者福祉の新しい取組み、我が国の具体的な実践について	◆我が国の具体的な実践が、分かりやすい様に配慮する。 活用レシピ① B 1 ◎ Google フォームを活用して、生徒の理解度をアンケート調査を実施する。
学習課題 少子化対策から、望ましい社会を考えよう		
③	○子育て支援と保育について	◆具体的な支援について理解につながる教材を活用する。 活用レシピ② C 2 ◎ Google Jamboard を活用して、近隣の取組みを例に挙げながら、支援方法を出し合う。
④	○少子化対策を考える	◆前時に学習した支援方法から繋がりをもたせ、どのような社会が望ましいのか理解し、自分の意見が持てるようにする。 活用レシピ③ C 3 ◎ 班の意見をまとめ Google スライドを活用して、発表用のスライドを作成する。

B 1

個に応じた学習（15分）

活用レシピ①

◎ Google フォームを活用して、生徒の理解度をアンケート調査を実施する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google フォーム」

【活用の流れ】

社会福祉基礎について

下記の質問に答えてください。

公的支援にはどんなものがありますか？

記述式テキスト（短文回答）

福祉関連の職業には何がありますか？

記述式テキスト（短文回答）

① Google フォームで、質問事項を作成

② 振り返りとして、確認テストにも活用できる。

	手 順	ポイント
①	Google フォームで、質問事項を作成する。	・QRコードを作成し、生徒が取り組みやすい状況を作っておく。
②	生徒が入力すると、「回答」にある Google スプレッドシートで集約ができる。	・回答が一覧でまとめられ、回答形式により、グラフで示すこともできる。

C 2

協働での意見整理（50分）

活用レシピ②

◎ Google Jamboard を活用して、近隣の取組みを例に挙げながら、支援方法を出し合う。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google Jamboard」

【活用の流れ】

The screenshot shows the Google Jamboard interface. At the top, there's a title bar with the text '社会福祉基礎「少子化対策から望ましい社会を考えよう！...」'. Below the title bar, there's a toolbar with various icons. The main workspace contains a large text area with the text '近隣の少子化の状況' and two sticky notes: one yellow with the text 'なぜ低いor高い' and one red with the text 'どうすればいい？'. A callout box points to the sticky notes with the text '①各項目について、付箋機能を活用して情報を整理し、具体的な対策を考えていく。'. Another callout box points to the top right corner with the text '②グループで共有する。'. The bottom right corner shows the 'Jamboard' logo.

	手 順	ポイント
①	Google Jamboard を共有し、グループごとに作業させる。	・班で話し合ったことを、図式化し、今後のまとめ・発表に繋げる。
②	付箋機能を活用して、調べたことや、考えたことを書かせる。	・付箋の色を確認しておく。

C 3

協働制作（50分）

活用レシピ③

◎班の意見をまとめ Google スライドを活用して、発表用のスライドを作成する。

使用するアプリ等

G Suite アプリ「Google スライド」

【活用の流れ】

①共同編集機能を活用し、グループ内で発表用のスライドを作成する。

②図などを挿入する。

	手 順	ポイント
①	グループごとに Google スライドで資料を作成させる。	・グループで 1 つのファイルを共同編集させる。
②	各班より発表させる。	・班でのまとめ、他班からの発表を聞き、自分の考えをまとめる。